

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年5月15日発行 No.35

『イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。』
(ヨハネによる福音書 14:6)

<世界中に聖書の言葉を広めたい!! 日本国際ギデオン協会からKIUに聖書を贈呈!!>

みなさんは、世界中に聖書を無料配布している国際ギデオン協会の存在を知っていますか? 今回、KIUは、ここから500冊もの聖書を贈呈していただきました!! そして昼の礼拝でも、兵庫地区代表を務めておられる小川昭三さんをお招きし、奨励を賜りました。わずか10分のお話の中に数えきれない程の聖書箇所が出てきて驚かされましたが「聖書の中にある真理にぜひ触れて欲しい」という小川さんの熱い願いに、私はチャプレンとして強く共感しました!!

先週から始まったキリスト教ガイダンスでも1年生全員に無料で配布しています。この機会が皆さんの人生を豊かにするよう祈ります。 力強い小川さんの奨励



<関西に位置する聖公会関係学校がKIUに勢揃い!! 超充実&大盛り上がりの六校交歓会!!!>

先週末、KIUキャンパスに様々な学校関係者が来訪されました!! なぜなら…年に一度関西に位置する聖公会関係学校が、交流を深めるために集う「六校交歓会」がKIUを会場に行われたからです!! 名古屋の柳城学院、京都の平安女学院、大阪の桃山学院とプール学院、そして神戸の松蔭女子学院と八代学院で構成される六校交歓会。心配された天候も回復し、各プログラムで充実と盛況が報告されていました。この勢いを各校に持ち帰り力に繋げて行きたいですね!!



和やかなムードのチャプレン会



力と技の激突!? ミカエル大運動会



美しいオルガンと歌声が響く



満員のチャペル 説教は前田理事長



各校の特色が光った懇親会も大盛況!!



プール学院が2連覇を達成!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月8日(月) テーマ:「青い鳥」

宮本 善広(大学職員)

小さい頃、絵本等で「青い鳥」という物語を読んだ事のある人は多いと思う。小さな兄妹チルチルとミチルが幸せを叶えてくれる青い鳥を探し求めて旅をする物語だ。2人は色々な国を回り、様々な出会いを経験するが、探している青い鳥は見つからない。ところが家に帰ってみると、飼っていた鳥が「青い鳥」であった。「普段の何気ない生活の中に本当の幸せが存在している」というメッセージであろう。マザー・テレサは「生きている事に幸せを感じている私から、だれも幸せを奪えない」という言葉を残している。私達も身の周りの幸せに目を留めつつ歩みたい。

5月9日(火) テーマ:「教えと戒めと矯正と義の訓練のための有益な本とは」

小川 昭三(日本国際ギデオン協会)

ギデオン協会は全世界200もの国で、主にホテルや病院、福祉施設等に聖書を無料贈呈する活動を展開している。なぜこんな活動を無償で行うのか? それはもちろん聖書が「真理の書」だからだ。新約聖書には89ヶ所に「真理」という言葉が書かれている。世には多くの「バイブル」がある(例:釣りのバイブル、料理のバイブル等...)。「バイブル」とは、物事の基本や指針、そして間違いのない導きとの意味である。聖書は全て神の靈感によって記され、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益である。ぜひ礼拝で聖書を通して「真理」に出会ってほしい。

5月10日(水) テーマ:「建学の精神についての考察」

遠藤 竜馬(経済学部)

昨日、私の担当する基礎ゼミの学生が、チャペル・ガイダンスを受けたが、その中でKIUの建学の精神「仕える生き方」が語られた。ここだけで終わって欲しくないと思う私は、毎年次の時間にも学生と建学の精神について話し合うようにしている。そこでは、建学の精神を深く理解し、自分の人生に活かすために、自分の言葉や物語で説明する課題を出している。これまで出てきたユニークな例は、アンパンマンや「ベルばら」のオスカル、また杉原千畝など、体制に流されずに他者の命の為に働いた人だ。この素晴らしい生き方をぜひ自分のものにして歩んで欲しい。

5月11日(木) テーマ:「そこに物語(メッセージ)がある」

野間 光顕(チャプレン)

今日はNHKの「フ・07エツヨル ~仕事の流儀~」が大好きだ。毎回一人のフ・0に焦点を定め、その生き方の流儀を紹介する。すごいと思うのが、一見マイナスに見える出来事でも、フ・0の流儀の視点を通すと、プラスに変えられている事だ。物事には必ず2面性がある。自分ではマイナスと思っているような出来事でも、視野を広げ、見方を変える事で、その人にしかない、かけがえのない物語や魅力へと変化する可能性を秘めている。特にキリスト教では、そんな一人ひとりの人生に起こる出来事を神からの恵み・賜物と考える。昼の礼拝ではそんな恵みを共に分かち合いたい。

5月12日(金) テーマ:「仕える喜び」

川畑 勇人(経済学部2年)

私は、神戸国際大学附属高校で3年間を過ごしたが、礼拝や聖書の授業にあまり関心を持っていなかった。しかし附属高校の生活を通して、多くの出会いや学びを経験する中で少しずつキリスト教や聖書、そして礼拝に関心を持つようになった。大学に進学し、昼の礼拝に参加すると、



学生が意欲的に礼拝奉仕をしていたのに驚き、自分もサーバーにチャレンジしてみた。初めはかなり緊張したが、だんだんやっていくうちに新しい自分へと進化しているように感じる事ができた。たとえば挨拶。白いキャソックを着て、チャペルの入口に立つと、顔や名前の分からない人でも大きな声で積極的に挨拶できるようになっている。他の学生にもこの成長と充実をぜひ味わってほしい。

(文責:野間 光顕)